

ネットコンファレンスの日時、説明者他：

日時	2022年11月8日 16:00～17:00
説明者	取締役専務執行役員 CFO 中島 一
説明資料	2022年度第2四半期決算の概要 及び 2022年度業績予想の概要

## Q&A

### ■ライフ&ヘルスケア・ソリューションセグメント

#### Q1. ライフ&ヘルスケア・ソリューションの通期の見通しの考え方に説明して欲しい。

A1. ビジョンケアの販売は堅調に推移しております。農薬につきましては、テネベナール、ジノテフランを中心に海外販売の拡大が堅調に推移しております。不織布つきましても値上げを実施してきており、交易条件改善を見込んでおります。

#### Q2. ビジョンケアの交易条件について説明して欲しい。

A2. 原燃料価格の上昇を背景に足元では交易条件は悪化しております。価格交渉については実施しておりますが、都度交渉なので値上げにはタイムラグがあります。引続き交易条件の改善を目指し、しっかりと価格改定に取り組んでまいります。

### ■モビリティソリューションセグメント

#### Q3. モビリティソリューションの22年1Q（4-6月）から22年2Q（7-9月）にかけて増益となる背景について説明して欲しい。

A3. 価格改定の実施、為替の円安影響及び高付加価値製品へのシフトにより交易条件が改善いたしました。

#### Q4. モビリティソリューションの22年上期（4-9月）から22年下期（10-3月）にかけて微増益にとどまる背景について説明して欲しい。

A4. 自動車生産台数の回復を背景に販売数量は増加を見込んでおりますが、新事業・新製品開発加速のため更なる資源投入により固定費は増加する見込みです。

#### Q5. PPコンパウンドの販売数量について21年度からの増減について説明して欲しい。

A5. 1Qでは対前年数%の減少、2Qでは10%程度強の増加となっており、上期全体を通して数パーセント増加いたしました。下期も対前年10%程度の数量回復を見込んでいます。

### ■ICTソリューションセグメント

#### Q6. ICTソリューションの22年上期（4-9月）から22年下期（10-3月）にかけて増益となる背景について説明して欲しい。

A6. 原料価格下落や為替の円安影響により交易条件の改善を見込んでおり増益を計画しております。一方、販売数量においては、EUVペリクルの販売は堅調に推移すると見込んでおりますが、上期から下期にかけても半導体及びスマートフォン市場は厳しい状態が続くと見通しており、クロスやアベル等各製品とも大きな販売数量の増加は見込んでおりません。

### ■ベーシック&グリーン・マテリアルズセグメント

#### Q7. ベーシック&グリーン・マテリアルズの22年1Q（4-6月）から22年2Q（7-9月）にかけて減益となる背景について説明して欲しい。

A7. 1Qではナフサ価格の上昇により、在庫の評価及び販売価格フォーミュラの期ずれを合わせた影響は100億円程度の在庫評価益がございましたが、1Qから2Qにかけてはナフサ価格の下落により、2Qは20億円程度の益に縮小した為、減益となりました。また、2Qは大阪工場での大定修により修繕費等も増加いたしました。

**Q8. ベーシック&グリーン・マテリアルズの 22 年上期（4-9 月）から 22 年下期（10-3 月）にかけて減益となる背景について説明して欲しい。**

**A8.** 在庫の評価及び販売価格フォーミュラの期ずれを合わせた影響は上期で 120 億円程度の在庫評価益が発生した一方、下期はナフサ価格の下落により 20 億円程度の損失を見込んでいます。また、市況下落等による持分法損益の悪化に加え、IFRS の会計基準により租税公課の計上時期が 4Q 一括となっているので費用が増加し減益を見込んでいます。

**Q9. エチレンラッカーの稼働率について説明して欲しい。**

**A9.** ポリオレフィンやフェノール類の販売数量減少を受け、上期は 80%程度、下期にかけても 90%弱の稼働率を見込んでおります。

以 上